

学校関係者評価報告書 (平成30年度)

学校法人国際総合学園
国際自然環境アウトドア専門学校

1. 学校関係者評価の実施について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って実施した「学校自己点検報告書（平成30年度）」について、当校に関係の深い評価委員に評価していただいた。

評価委員には、新型コロナウイルス拡大防止の為、学校運営状況をまとめた資料を配布し、書面にて意見等を聴取した。

2. 学校関係者評価委員会 委員

氏名	職名
はたけやま こういち 畠山 浩一	公益社団法人日本山岳ガイド協会 理事
はぎわら こうじ 萩原 浩司	株式会社山と溪谷社 主幹/山岳図書出版部部長
ほしの ひろかず 星野 浩一	国立妙高青少年自然の家 所長
みやした とみお 宮下 富男	妙高市原通自治会 会長
おおの としひろ 大野 敏宏	妙高市観光商工課 課長補佐
えんどう すずむ 遠藤 晋	国際自然環境アウトドア専門学校 同窓会 会長
おおたき のりお 大瀧 則雄	学校長
こやま としゆき 小山 敏行	副校長/事務局長/教務部長
さいとう たつや 斎藤 達也	自然ガイド・環境保全学科主任
たなべ しんいち 田辺 慎一	野外教育アウトドアスポーツ学科主任
はっとり まさあき 服部 正秋	クライミングインストラクター学科主任
よしだ ゆたか 吉田 豊	山岳プロ学科主任

3. 日時、場所

令和2年4月10日（金）を締め切りとして委員の方々にご意見を書面で頂戴した。

4. 委員会次第

- (1) 開会
- (2) 評価委員紹介
- (3) 学校長挨拶
- (4) 学校関係者評価委員会について
副校長より「学校関係者評価委員会規定」等の資料に基づき、学校関係者評価委員会の位置付けや目的について
- (5) 職業実践専門課程について
副校長より「職業実践専門課程」の紹介資料に基づき、職業実践専門課程の設置された経緯や現在の状況を説明した。
- (6) 平成30年度学校自己評価報告
副校長より本年度12月に作成した「学校自己評価報告書（平成30年度）」について、各評価項目における現状、課題と改善策を報告した。併せて自己評価の参考資料となる、教職員・学生・保護者アンケートの結果や、学校運営状況についてまとめた資料に基づいて様々な状況を報告した。
- (7) 審議
評価報告に対して、各評価委員から意見をいただいた。内容は後記のとおり。
- (8) 閉会

5. 審議

【各委員からの意見等】

畠山 浩一 委員

国際自然環境アウトドア専門学校と学生は地元、地域社会に受け入れられていて、青少年自然の家や地元自治会などと協働し、一定の役割を果たしている。特殊性を持つ専門学校が、地域社会の中で明確な存在感を持つという点で素晴らしいモデルであり、将来に繋がってくれることを大いに期待している。

このようなモデルが成功例にならないと、特に若者を集める専門学校等は都市部にのみにしか存在できなくなることを大変危惧している。止められない少子化の中で、私立学校の経営は容易なことではないが、教育機関として御校の発展と存続のために協力を惜しまない所存である。

星野 浩一 委員

「学生アンケート」の結果について

昨年度よりも数値の向上している項目が多い。学校の取り組みが充実していることが伺われる。

「学生の確保（入学面）」と「高等学校等との連携について」

国立妙高自然の家でもできることがないか、考えてみたいと思います。

ポスターの掲示やパンフレット等の設置は可能です。

自然の家の諸事業に、貴校の学生さん達からご支援をいただくことがあり、大変感謝しております。市や関山地区の皆さんとのコラボ企画もあるようですが、自然の家をフィールドにして事業も展開できると嬉しいです。

「審議事項」については、了解をいたしました。

宮下 富男 委員

学校自己評価報告書で気になる点

4. 学生支援の項目について、自己採点が「2」となっている。改善に向けて努力を期待する。

学生意識調査

入学前の印象と比較して53%の方が「授業内容にギャップを感じる」との回答が気になりました。

少子化や今後の社会状況等の変化もあり、学生の確保が重要となってくると思われますので、少しずつでも改善していただければと思います。

萩原 浩司 委員、遠藤 晋 委員、大野 敏宏 委員の皆様方について

「審議事項」については、了解を頂きました。

大瀧 則雄 委員（学校長）

様々なご意見を頂きありがとうございました。今回いただきましたご意見を今後の学校運営に役立ててゆきたいと思っております。

新型コロナウイルス拡大がとりたたさされている中、各委員の皆様方、教職員の健康をお祈りしております。

以上